

デーヴォ ガイド



2024.4.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

1:1 ダビデ王は年を重ねて老人になっていた。そのため衣をいくら着せても温まらなかった。

1:2 家来たちは王に言った。「王のために一人の若い処女を探し、御前に仕えて世話をするようにし、王の懐に寝させて王が温まるようにいたしましょう。」

1:3 こうして彼らは、イスラエルの国中に美しい娘を探し求め、シュネム人の女アビシャグを見つけて、王のもとに連れて来た。

1:4 この娘は非常に美しかった。彼女は王の世話をするようになり、彼に仕えたが、王は彼女を知ることがなかった。

1:5 ときに、ハギテの子アドニヤは、「私が王になる」と言って野心を抱き、戦車、騎兵、それに自分の前に走る者五十人を手に入れた。

1:6 彼の父は、「おまえは、どうしてこんなことをしたのか」と言って、彼のことで心を痛めたことは一度もなかった。そのうえ、彼は非常に体格も良く、アブサロムの次に生まれた子であった。

1:7 彼がツェルヤの子ヨアブと祭司エブヤタルに相談をしたので、彼らはアドニヤを支持するようになった。

1:8 しかし、祭司ツァドクとエホヤダの子ベナヤと預言者ナタン、それにシムイとレイ、およびダビデの勇士たちは、アドニヤにくみしなかった。

1:9 アドニヤは、エン・ロゲルの近くにあるゾヘレテの石のそばで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえとして献げ、王の息子たちである自分のすべての兄弟たちと、王の家来である

ユダのすべての人々を招いた。

1:10 しかし、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして自分の兄弟ソロモンは招かなかった。

列王記は王の記録ですが、実のところ彼らのほとんどが主に従わなかったという失敗の記録です。そしてそれゆえに王国が減ってしまったという悲劇の記録でもあります。王も人であるゆえの限界があるのであって、それはダビデでも同じです。イスラエル王国を確立したダビデでしたが、老年になるとあらゆる面で衰えてしまい、指導力も低下して彼の身内から謀反が起こったのです。

私たちにとっても、年齢的な面で衰えるとき、気をつけなければなりません。謙遜になる必要もありますし、責任ある立場から退く決断も必要です。

旧約聖書は失敗の記録であるとともに、霊的な真理をイスラエルの歴史から学ぶものでもあります。すなわち私たちの信仰面で解釈するのです。そこで学べきことは、たとえ年齢が若くても、その信仰が衰えてしまうと、または成長がなくなってしまうとき、私たちは警戒しなくてはならないということです。謙遜になる必要があります。誰もが霊的に鈍くなった状態から、もっと前向きな若々しい信仰に変わる必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 火曜

列王 I



1:11 そこで、ナタンはソロモンの母バテ・シェバにこう言った。「われらの君ダビデが知らないうちに、ハギテの子アドニヤが王になったことを、あなたは聞いていないのですか。

1:12 さあ今、あなたに助言をしますから、自分のいのちと、自分の子ソロモンのいのちを救いなさい。

1:13 すぐにダビデ王のもとに行き、『王様。あなたは、このはしのために、「必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く」と誓われたではありませんか。それなのに、なぜアドニヤが王となったのですか』と言いなさい。

1:14 あなたがまだそこで王と話している間に、私もあなたの後から入り行って、あなたのことばが確かであることを保証しましょう。」

1:15 バテ・シェバは寝室の王のもとに行った。王は非常に年老いていて、シュネム人の女アビシャグが王に仕えていた。

1:16 バテ・シェバがひざまずいて、王に礼をすると、王は「何の用か」と言った。

1:17 彼女は答えた。「わが君。あなたは、あなたの神、【主】にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』と、このはしのためにお誓いになりました。

1:18 それなのに今、ご覧ください、アドニヤが王となっています。王様、あなたはそれをご存じではないのです。

1:19 彼は、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のすべてのお子様と、

祭司エブヤタル、それに軍の長ヨアブを招いたのに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。

1:20 王様。王様の跡を継いで王座に就くのはだれと告げられるのかと、今や、全イスラエルの目はあなたの上に注がれています。

1:21 このままですと、王様がご先祖とともに眠りにつかれるとき、私と私の子ソロモンは罪ある者と見なされるでしょう。」

1:22 彼女がまだ王と話しているうちに、預言者ナタンが入って来た。

1:23 家来たちは、「預言者ナタンが参りました」と言って王に告げた。彼は王の前に出て、地にひれ伏し、王に礼をした。

1:24 ナタンは言った。「王よ。あなたは『アドニヤが私の跡を継いで王となる。彼が私の王座に就く』とおっしゃったのでしょうか。

1:25 実は今日、彼は下って行って、雄牛や肥えた家畜や羊をたくさん、いけにえとして献げ、王のお子様すべてと、軍の長たち、そして祭司エブヤタルを招きました。彼らは彼の前で食べたり飲んだりしながら、『アドニヤ王、万歳』と叫びました。

1:26 しかしあなたのしもべのこの私や、祭司ツアドク、エホヤダの子ベナヤ、それに、あなたのしもべソロモンは招きませんでした。

1:27 このことは、王から出たことなのか。あなたは、だれが王の跡を継いで王座に就くのかを、このしもべに告げておられません。」

ころになかないことは、結局失敗します。

みころに沿わない人でも一時的に権力や成功を手に入れることもあります。しかし私たちは人を恐れることなく、ただ主のみころがなることを信じて、主のみころを行いましょう。

①神のみころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

アドニヤがその野心から王となろうとしました。それはうまくいったように見えたが、神のみ



3日 水曜

列王 I

1:28 ダビデ王は答えた。「バテ・シェバをここに。」彼女が王の前に来て、王の前に立つと、

1:29 王は誓って言った。「【主】は生きておられる。主は私のたましいをあらゆる苦難から贖い出してください。」

1:30 私がイスラエルの神、【主】にかけて、『必ずあなたの子ソロモンが私の跡を継いで王となる。彼が私に代わって王座に就く』とあなたに誓ったとおり、今日、必ずそのとおりにしよう。」

1:31 バテ・シェバは地にひれ伏して王に礼をし、そして言った。「わが君、ダビデ王様。いつまでも生きられますように。」

1:32 それからダビデ王は「祭司ツアドクと預言者ナタン、それにエホヤダの子ベナヤをここに呼べ」と言った。彼らが王の前に来ると、

1:33 王は彼らに言った。「おまえたちの主君の家来たちを連れて、私の子ソロモンを私の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ下れ。」

1:34 祭司ツアドクと預言者ナタンは、そこで彼に油を注いでイスラエルの王とせよ。そうして、角笛を吹き鳴らし、『ソロモン王、万歳』と叫べ。

1:35 それから彼の後に従って上れ。彼は来て、私の王座に就き、私に代わって王となる。私は彼をイスラエルとユダの君主に任命する。」

1:36 エホヤダの子ベナヤが王に答えて言った。「アーメン。王の神、【主】も、そう言われますように。」

1:37 【主】が王とともにおられたように、ソロモンとともにいて、その王座を、わが君ダ



ビデ王の王座よりもすぐれたものとされま
すように。」

アドニヤの野心は、結局ソロモンが王となることのきっかけとなりました。主のご計画に反することは、成就することはありません。かえって主の計画に用いられるのです。

私たちもそのような主のみわざを見るのですが、それには確信が必要であり、あくまでも主に従おうという決心が必要です。ダビデにはナタンなど信仰の同志がいました。主のご計画は信仰の共同体に共通に示されるのです。特に預言者、祭司といった信仰の働き人は重要です。

共に分かち合い、ビジョンを共有しつつ、主の共同体に働くビジョンと夢に向かっていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4日 木曜

列王 I



1:38 そこで、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それにクレタ人とペレテ人が下って行き、ソロモンをダビデ王の雌ろばに乗せ、彼を連れてギホンへ行った。

1:39 祭司ツァドクは天幕の中から油の角を取って来て、ソロモンに油を注いだ。彼らが角笛を吹き鳴らすと、民はみな、「ソロモン王、万歳」と言った。

1:40 民はみな、彼の後に従って上って来た。民が笛を吹き鳴らしながら、大いに喜んで歌ったので、地がその声で裂けた。

1:41 アドニヤと、彼とともにいた客はみな、食事を終えたとき、これを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞いて言った。「なぜ、都で騒々しい音がするののか。」

1:42 彼がまだそう言っているうちに、祭司エブヤタルの子ヨナタンがやって来た。アドニヤは言った。「入れ。おまえは勇敢な男だから、良い知らせを持って来たのだろう。」

1:43 ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ、われらの君、ダビデ王はソロモンを王とされました。」

1:44 ダビデ王は、祭司ツァドク、預言者ナタン、エホヤダの子ベナヤ、それに、クレタ人とペレテ人をソロモンにつけて送り出されました。彼らはソロモンを王の雌ろばに乗せ、

1:45 祭司ツァドクと預言者ナタンが、ギホンで彼に油を注いで王としました。こうして彼らが喜びながら、そこから上って来たので、都が騒々しくなったのです。あなたがたが聞いたあの物音がそれです。

1:46 しかも、ソロモンはすでに王の座に就きました。

1:47 そのうえ、王の家来たちが来て、『神がソロモンの名をあなたの名よりもすぐれたものとし、その王座をあなたの王座よりも大いなるものとされますように』と、われらの君、ダビデ王に祝福のことばを述べました。すると、王は寝台の上でひれ伏されました。

1:48 また、王はこう言われました。『イスラエルの神、【主】がほめたたえられるように。主は今日、私の王座に就く者を与え、私がこの目で見るようにしてください。』

1:49 アドニヤの客たちはみな身震いして立ち上がり、それぞれ帰途についた。

1:50 アドニヤもソロモンを恐れて立ち上がり、行って祭壇の角をつかんだ。

1:51 そのとき、ソロモンに次のような知らせがあった。「アドニヤはソロモン王を恐れ、祭壇の角をしっかり握って、『ソロモン王がまず、このしもべを剣で殺さないと私に誓ってくださるように』と言っています。」

1:52 すると、ソロモンは言った。「彼が立派な人物であれば、その髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、彼のうちに悪が見つければ、彼は死ななければならない。」

1:53 それから、ソロモン王は人を遣わして、アドニヤを祭壇から降ろさせた。アドニヤが来てソロモン王に礼をすると、ソロモンは彼に言った。「家に帰りなさい。」

アドニヤは浅はかな野心を持ちましたが、失敗しました。またその客達も彼の野心にあやかりたいと、集まりましたが、結局恥を見たのです。み

ところに叶わない行いは、そのときは勢いがあるように見えても、結局みじめに終わるので。

人は成功できるかどうかで動くべきではなく、その動機が大切です。すなわち主を愛しているか、みこころかどうかです。

一方ソロモンは王位を確立するために敵をたたくというのではなく、あくまでも主にゆだねました。そこに勝利者の秘訣があるので。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

列王 I

- 2:1 ダビデの死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに次のように命じた。
- 2:2 「私は世のすべての人が行く道を行こうとしている。あなたは強く、男らしくありなさい。
- 2:3 あなたの神、【主】への務めを守り、モーセの律法の書に書かれているとおりに、主の掟と命令と定めとさとしを守って主の道に歩みなさい。あなたが何をして、どこへ向かって、栄えるためだ。
- 2:4 そうすれば、【主】は私についてお告げになった約束を果たしてくださるだろう。すなわち『もし、あなたの息子たちが彼らの道を守り、心を尽くし、いのちを尽くして、誠実にわたしの前に歩むなら、あなたには、イスラエルの王座から人が断たれることはない』。
- 2:5 また、あなたはツェルヤの子ヨアブが私にしたこと、すなわち、彼がイスラエルの二人の軍の長、ネルの子アブネルとエテルの子アマサにしたことを知っている。ヨアブは彼らを虐殺し、平和なときに戦いの血を流し、自分の腰の帯と足のくつに戦いの血をつけたのだ。
- 2:6 だから、あなたは自分の知恵にしたがって行動しなさい。彼の白髪頭を安らかによみに下らせてはならない。
- 2:7 しかし、ギルアデ人バルジライの子たちには恵みを施してやり、彼らをあなたの食卓に連ならせなさい。彼らは、私があなたの兄弟アブサロムの前から逃げたとき、私の近くに来てくれたのだから。
- 2:8 また、あなたのそばに、バフリム出身の



- ベニヤミン人ゲラの子シムイがいる。彼は、私がマハナイムに行ったとき、非常に激しく私を呪った。だが、彼は私を迎えにヨルダン川に下って来たので、私は【主】にかけて、『おまえを剣で殺すことはない』と彼に誓った。
- 2:9 しかし今は、彼を咎めない者としてはならない。あなたは知恵の人だから、どうすれば彼の白髪頭を血に染めてよみに下らせるかが分かるだろう。」
- 2:10 こうして、ダビデは先祖とともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。
- 2:11 ダビデがイスラエルの王であった期間は四十年であった。ヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。
- 2:12 ソロモンは父ダビデの王座に就き、その王位は確立した。

父ダビデは愛する息子ソロモンに大切なことを教えます。それは「主の戒めを守り」なさいということです。信仰の遺産こそが最も大切な宝です。それを何よりも子どもに伝えるべきで、そのために人生をかけてもよいほどです。

また子は、信仰の親からは、その信仰こそ受け継ぐべきです。それが恵の「座から…断たれない」秘訣です。

ダビデは自分に対しての、人々の良い行いや仕打ちについて、ソロモンに警戒を与えます。そのようなことを人に表す時には、恨みから出たものであってはなりません。恨みは次の恨みを生み出します。悪の思いはキリストの愛によって、祝福に変えられる必要があります。それが、子どもや次世代を愛することになるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 土曜

列王 I

2:13 あるとき、ハギテの子アドニヤがソロモンの母バテ・シェバのところにやって来た。バテ・シェバは「平和なことで来たのですか」と尋ねた。彼は「平和なことです」と答えて、

2:14 さらに言った。「お話ししたいことがあるのですが。」すると彼女は言った。「話してごらんなさい。」

2:15 彼は言った。「ご存じのように、王位は私のものでしたし、イスラエルはみな私が王になるのを期待していました。それなのに、王位は転じて、私の弟のものとなりました。」

【主】によって彼のものとなったからです。

2:16 今、あなたに一つのお願ひがあります。断らないでください。」バテ・シェバは彼に言った。「話してごらんなさい。」

2:17 彼は言った。「どうかソロモン王に頼んでください。あなたからなら断らないでしょうから。王がシュネム人の女アビシャグを、私に妻として与えてくださるように。」

2:18 そこで、バテ・シェバは「いいでしょう。私から王にあなたのことを話します」と言った。

2:19 バテ・シェバは、アドニヤのことを話すために、ソロモン王のところに行った。王は立ち上がって彼女を迎え、彼女に礼をして、自分の王座に座った。王の母のために席が設けられ、彼女は王の右に座った。

2:20 彼女は言った。「あなたに一つのお願ひがあります。断らないでください。」王は彼女に言った。「母上、その願ひ事を聞かせてください。断ることはしませんから。」



2:21 彼女は言った。「シュネム人の女アビシャグを、あなたの兄アドニヤに妻として与えてやってください。」

2:22 ソロモン王は母に答えた。「なぜ、アドニヤのためにシュネム人の女アビシャグを願うのですか。彼は私の兄ですから、彼のためには王位を願ったほうがよいではありませんか。彼のためにも、祭司エブヤタルやツェルヤの子ヨアブのためにも。」

2:23 ソロモン王は【主】にかけて次のように誓った。「アドニヤがこういうことを言ってもなお自分のいのちを失わなかったなら、神がこの私を幾重にも罰せられるように。」

2:24 【主】は生きておられる。主は私を父ダビデの王座に就かせて、私を堅く立て、約束どおり私のために家を建ててくださった。アドニヤは今日殺されなければならない。」

2:25 こうしてソロモン王は、エホヤダの子ベナヤを遣わしてアドニヤを討ち取らせたので、彼は死んだ。

アビシャグはダビデに仕えていた女性で、彼女を妻にするということは、ダビデ王の威光を自分のものとするということです。すなわち王位を自分のものとするということになり、すなわちソロモンを敵として蹴落とすことを意味するのです。

ソロモンは、1章においては無駄な戦いを避けて、アドニヤを赦しましたが、今回は彼を除く決断をしました。王国に分裂と血をもたらすことがわかったからです。平和を作り出しながらも、その平和が脅かされるとき、また人の命に関わるときは、決断をくださなくてはなりません。現代においては永遠の命を守ることを最優先しなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願ひなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:26 それから、王は祭司エブヤタルに言った。「アナトテの自分の地所に帰れ。おまえは死に値する者だが、今日はおまえを殺さない。おまえは私の父ダビデの前で【主】である主の箱を担ぎ、父といつも苦しみをともにしたからだ。」

2:27 こうして、ソロモンはエブヤタルを【主】の祭司の職から追放した。シロでエリの家族について語られた【主】のことは、こうして成就した。

2:28 この知らせがヨアブのところに伝わった。ヨアブはアブサロムにはつかなかったが、アドニヤについていたのである。ヨアブは【主】の天幕に逃げ、祭壇の角をつかんだ。

2:29 ソロモン王に「ヨアブが【主】の天幕に逃げて、今、祭壇の傍らにいる」という知らせがあった。するとソロモンは、「行って彼を討ち取れ」と命じて、エホヤダの子ベナヤを遣わした。

2:30 ベナヤは【主】の天幕に入って、彼に言った。「王がこう言われる。『外に出よ。』」彼は「いや、ここで死ぬ」と言った。ベナヤは王にこのことを報告した。「ヨアブはこう私に答えました。」

2:31 王は彼に言った。「彼が言ったとおりにせよ。彼を討ち取って葬れ。こうして、ヨアブが理由もなく流した血の責任を、私と、私の父の家から取り除け。」

2:32 【主】は、彼が流した血を彼の頭に注ぎ返される。彼は自分よりも正しく善良な二人の者に討ちかかり、剣で虐殺したからだ。彼は私の父ダビデが知らないうちに、イスラエルの軍の長である、ネルの子アブネルと、ユ

ダの軍の長である、エテルの子アマサを虐殺したのだ。

2:33 二人の血は永遠にヨアブの頭と彼の子孫の頭に注ぎ返され、ダビデとその子孫、および、その家と王座には、とこしえまでも【主】から平安があるように。」

2:34 エホヤダの子ベナヤは上って行き、彼を打って殺した。ヨアブは荒野にある自分の家に葬られた。

2:35 王はエホヤダの子ベナヤを彼の代わりに軍団長とした。また、王は祭司ツァドクをエブヤタルの代わりとした。

ソロモンはエブヤタルを罷免し、ヨアブを処刑しました。王国には、悪事を働きながら罪を悔い改めない有力者が残っていると、後にまた命が奪われる危険があるからです。

彼らはダビデの時代には安心していたので、悔い改める必要を感じなかったのでしょうか、そのような安心はいつまでも続きません。神様は必ず罪に報いる方ですから、今がだいじょうだからといっていい加減にすることなく、正しく悔い改める必要があります。

またソロモンのように、将来を考えて、正しいことを断行する必要もあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

